

むらさきそう

西東京市立田無第一中学校
校長 辻 康一

(住所) 西東京市南町6-9-37 (電話) 042-462-2811

カラー版はホームページで

URL <https://www.nishitokyo.ed.jp/j-tanashi1/>



達成体験で「あきらめない力」をつける

合唱コンクールが間近に迫り、学校中が美しい歌声に包まれています。1学期に行われた運動会では、クラスの団結と協力、そして個人の頑張りが見ている人々の心を打ちました。実際、運動会を参観していただいた方々からは「中学生の懸命な姿に涙が出ました」という感想もいただきました。運動が得意な人も苦手な人も、仲間とともに目標に向かってそれぞれが自分の持てる力を精一杯に出し切る姿、そしてそれを心から応援する姿には大きな感動を与えられました。

そして今、再び実行委員やパートリーダーを中心に、力を合わせて合唱コンクールに臨もうとしています。しかし、目前に迫った合唱コンクールに向けて、クラスでの練習は順調に進んでいるのでしょうか？ クラスのみんなが同じ方向を向いて、積極的に練習しているのでしょうか？ 実行委員やパートリーダーが一生懸命に呼びかけても、クラスがまとまらないということはないのでしょうか？

私が担任をしていたころは、自分のクラスでは先に挙げたような問題が次々と起こりました。時には、本番の前日まで気持ちがバラバラだったときもありました。もしかすると、同じような状況にいるかもしれない生徒たちに、私が読んだ本を紹介します。それは『今いる仲間で「最強のチーム」をつくる』（日本実業出版社）という本です。

その中では「チームシップ」という言葉が出てきます。チームワークやリーダーシップは聞いたことがあると思いますが、チームシップはあまりなじみのない言葉かもしれません。

チームシップとは、「チーム内の地位や役割に関係なく、メンバー一人ひとりが**お互いを理解しながら、チームとしての成果のために成長すること**」を言います。まず、大切なことは〈人は自分とは違う〉ということに気づくことです。当然ですが、合唱に対するモチベーションは一人ひとり違います。まずそのことを理解し、その上で対話を通して目的を共有し、自分で目標を設定します。わかりやすく言うと、この合唱コンクールに取り組む目的は何かをはっきりさせます。最初は小グループで話し合ってもいいでしょう。そして、それをクラス全体で確かめて、そのために**自分が**どうなれば良いのかを考え実行に移すことです。人がどうするかではなく、自分がどうなれば良いかを考えることが大切です。

けれども、「自分は一生懸命やっているのに」と不満に思うことや「キツイことを言われてやる気がなくなってしまう」ということもあるかもしれません。そんなときに自分の感情をコントロールするのは【達成経験】です。これまで自分が設定した目標を達成したことを思い出すのです。運動会であきらめないで力を出し切ったこと。テストに向けていつもよりたくさん勉強したこと。部活動で壁を乗り越えたこと。そのような達成体験がある人は、簡単にあきらめたりしません。だからこそ、どんなに小さなことでもいいので達成体験を積むことが大切です。よく似た言葉に【成功体験】がありますが、達成体験の方は自分で目標を設定するもので、こちらの方がずっと大切です。そして、あきらめない力とは、どんなに追い込まれても「きっと今度も何とかなるはずだ。だから頑張ってみよう」という気持ちです。

みんなが全員、合唱が大好きなことではないでしょう。けれども、この合唱コンクールの取組を通じて、チームシップを育み、自分の達成経験を積むことが自分を成長させていくことにつながっていくのです。

【2 学年】職場体験（9 月 1 1 日、1 2 日）

2 学年の総合的な学習の一環として、職場体験学習を行いました。今年度は、81 の事業所にご協力いただき、学校内の授業では体験できない貴重な経験をさせていただきました。慣れないことに緊張しつつも、各事業所のみなさまに丁寧にご指導いただき、無事に2 日間の体験を終えることができました。

生徒からは、「仕事は疲れたけれど、すごく達成感があった」「名前を覚えてもらえて、話しかけてもらえて嬉しかった」との声も聞かれ、充実した2 日間を過ごすことができました。



【全学年】生徒会役員選挙（9 月 1 8 日）

第57 期生徒会会長・執行委員を決める立会演説会並びに役員選挙が行われました。立候補者・応援者は、夏休み前から演説原稿やポスター、たすきの準備を行ってきました。立候補者・応援者の皆さんの堂々と演説する姿は、これからの中を引っ張っていこうという決意あふれる姿でした。全校生徒、教職員を合わせて600 人以上の前で自分の思いを伝えるという経験は普段の生活では得難いもので、選挙の結果に関わらず、生徒それぞれの良い経験になったのではないのでしょうか。その後の投票では、学年ごとに投票所を設定し、実際の選挙で使われる投票箱と同じものを準備して行いました。緊張感あふれる空間に投票する生徒も皆、真剣な表情で取り組んでいました。



【生徒会】エコキャップ運動・コンタクトレンズケース回収

第56 期生徒会本部では、SDGs 活動の一環としてペットボトルキャップやコンタクトレンズケースの回収をしました。ペットボトルキャップは昨年の10 月から回収して合計で36245 個、コンタクトレンズケースは今年の3 月から回収して合計で3310 個集まりました。ペットボトルキャップは、45 人分のワクチンに変えられ発展途上国に届けられます。また、コンタクトレンズケースは、アイシティ 田無店に寄付しました。このケースは、日本アイバンク協会で行われている角膜移植や献眼の活動に生かされるそうです。また、CO₂ の削減にも一役買っています。

生徒会本部役員を中心に本来“ゴミ”となるものを全校生徒で協力してリサイクルすることで、誰かの命を救ったり、誰かの新しい光になったりしています。リサイクルをする、という意識をもつだけで誰かの未来や環境を変えられるのは素晴らしいことだと、活動を通して改めて気付かされました。全校生徒のみなさん、改めてご協力ありがとうございました。これからも SDGs 活動への参加をよろしくお願いします。

